館林市埋蔵文化財発掘調査報告書　第48集

館林市内遺跡発掘調査報告書

—平成23年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査—

新宿二丁目遺跡（平２３地点）

八方遺跡（平２３地点）

加法師遺跡（平２３地点）

北近藤第一地点遺跡（平２３地点）

萩原遺跡（平２３地点）

志柄１遺跡（平２３地点）

長竹遺跡（平２３地点）

２０１１
館林市教育委員会

館林市埋蔵文化財発掘調査報告書　第48集

館林市内遺跡発掘調査報告書

—平成23年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査—

新宿二丁目遺跡（平２３地点）

八方遺跡（平２３地点）

加法師遺跡（平２３地点）

北近藤第一地点遺跡（平２３地点）

萩原遺跡（平２３地点）

志柄１遺跡（平２３地点）

長竹遺跡（平２３地点）

２０１１
館林市教育委員会

例　　言

1. 本書は、平成23年度に国宝重要文化財等保存整備事業費補助金、群馬県文化財保存事業費補助金を受けて実施した館林市内遺跡発掘調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書において報告する遺跡名は、「遺跡台帳」に基づき次のとおりである。地点名は、平成23年度の調査であることから、「平23地点」とする。なおすべての遺跡が確認調査である。

新宿二丁目遺跡（しんじゅくにちょうめ）　八方遺跡（はちがた）　加法師遺跡（かぼうし）　北近藤第一地点遺跡（きたこんどうだいいちちてん）

萩原遺跡（はぎわら）　志柄1遺跡（しがら）　長竹遺跡（ながたけ）

3. 調査組織は次のとおりである。

調査主体者	館林市教育委員会	
担　当　課	文化振興課文化財係	
調 査 組 織	教育長	橋本　文夫
	教育次長	赤坂　守民
	文化振興課長	岡屋　英治
	文化財係長	石崎　治
	主査	荒川　博一
	主任	福田　美枝
	主事	堀越　峰之
	主事	須藤　美樹
	主事補	礒　聡実

4. 調査作業員

川島一郎　金子元一　阪口丈夫　舘野駒三　田村芳之
橋本二三夫　原田和沙　久田進　前田清美　大瀧光明　寺嶋美雪

5. 出土遺物、調査記録及び資料は、館林市教育委員会で保管している。
6. 本書の編集・執筆については、堀越、須藤、原田が中心となり行った。
7. 遺物の実測、遺物観察表及びその他の図版の作成は根岸良子氏にご教示を得て、原田、前田が行った。
8. 出土遺物に関しては、深澤敦仁氏（群馬県教育委員会）、飯森康弘氏、黒沢照弘氏（（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団）のご教示を得た。
9. 調査の実施および本書刊行にあたり、下記の諸氏諸機関のご協力を頂いた。ここに記して感謝申しあげる次第である。（順不同、敬省略）
館林市都市建設部道路河川課　館林市都市建設部都市計画課　館林市環境水道部水道課　館林市環境水道部下水道課　館林市農業委員会　館林市史編さんセンター　館林市立第六小学校　館林市保健福祉部こども福祉課　深澤敦仁　飯森康広　黒澤照弘　根岸良子　地権者各位

凡　　例

1. 本書における挿図の縮尺は、図中に記した。
2. 遺跡位置図は、館林市都市計画図（S＝1/10000）を1/5000に拡大し用いた。なお遺跡位置図中のスクリーントーン　は遺跡地、　は調査地を示している。
3. 土層断面及び出土遺物の注記に用いた色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版土色帖」に従った。一部、調査担当者の目視による判断も含まれる。

参 考 文 献

本書を作成するにあたり以下の文献を参考にした。

館林市教育委員会　『館林市埋蔵文化財発掘調査報告書』第1集～第47集
館林市教育委員会　『館林市史特別編第4巻 館林城と中近世の遺跡』2010年
館林市教育委員会　『館林市史資料編1巻 館林の遺跡と古代史』2011年

目　　次

例　言 ・・1
凡　例 ・・1
参考文献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
目　次 ・・2
挿図目次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
写真図版目次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第1章　館林市の環境
　1. 地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　2. 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第2章　確認調査の概要
　1. 新宿二丁目遺跡（平23地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　2. 八方遺跡（平23地点）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　3. 加法師遺跡（平23地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
　4. 北近藤第一地点遺跡（平23地点）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　5. 萩原遺跡（平23地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　6. 志柄１遺跡（平23地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　7. 長竹遺跡（平23地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
写真図版 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
報告書抄録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

挿　図　目　次

第1図　館林市の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第2図　館林市の地形概念図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第3図　平成23年度調査遺跡の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第4図　新宿二丁目遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第5図　新宿二丁目遺跡（平23地点）トレンチ配置図・土層図・・・・・・・・・・・・・6
第6図　新宿二丁目遺跡（平23地点）出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第7図　八方遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第8図　八方遺跡（平23地点）トレンチ配置図・土層図・・・・・・・・・・・・・・・・8
第9図　八方遺跡（平23地点）トレンチ配置図・土層図・・・・・・・・・・・・・・・・8
第10図 八方遺跡（平23地点）出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第11図 加法師遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第12図 加法師遺跡（平23地点）トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第13図 加法師遺跡（平23地点）2トレンチ内遺構平面図 ・・・・・・・・・・・・・・10
第14図 加法師遺跡（平23地点）土層図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第15図 加法師遺跡（平23地点）出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第16図 加法師遺跡（平23地点）出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第17図 北近藤第一地点遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第18図 北近藤第一地点遺跡（平23地点）トレンチ配置図・土層図・・・・・・・・・・・14
第19図 北近藤第一地点遺跡（平23地点）出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・14
第20図 萩原遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第21図 萩原遺跡（平23地点）トレンチ配置図・土層図・・・・・・・・・・・・・・・・15
第22図 志柄1遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第23図 志柄1遺跡　（平23地点）トレンチ配置図・土層図・・・・・・・・・・・・・・16
第24図 長竹遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第25図 長竹遺跡（平23地点）トレンチ配置図・土層図・・・・・・・・・・・・・・・・17

写　真　図　版　目　次

新宿二丁目遺跡（平23地点）・・・21
1-1　調査地
1-2　1T土層断面（南から）
1-3　1T（東から）
1-4　2T（東から）
1-5　3T（東から）
1-6　4T（東から）

八方遺跡(平23地点）・・・21
2-1　調査前
2-2　1T（東から）
2-3　2T（西から）
2-4　3、4T（東から）
2-5　5T（東から）
2-6　6T（東から）
2-7　5T柱穴列（西から）
2-8　5T柱穴（北から）
2-9　1T2号井戸遺物出土状況①（北から）
2-10 1T2号井戸遺物出土状況②（北から）
2-11 3、4T住居跡（西から）
2-12 1T1号井戸（東から）
2-13 5T4号井戸（南から）
2-14 6T東溝状遺構（東から）
2-15 3T遺物番号15、16出土状況
2-16 6T溝（西から）
2-17 1T土層断面（南から）
2-18 6T土層断面（南から）

加法師遺跡（平23地点）・・・24
3-1　調査状況
3-2　1T（東から）
3-3　2T（東から）
3-4　2T焼土（東から）
3-5　2T1号円形遺構遺物出土状況（北から）
3-6　2T1号円形遺構完掘（北から）
3-7　2T2号円形遺構遺物出土状況（北から）
3-8　2T2号円形遺構完掘（北から）
3-9　1T東遺構集中箇所遺物出土状況（南から）
3-10 1T東遺構集中箇所完掘（南から）
3-11 1T1号溝遺物出土状況（北から）
3-12 1T1号溝完掘（北から）
3-13 1T1号井戸遺物出土状況（南から）
3-14 1T土層断面（南から）

北近藤第一地点遺跡（平23地点）・・・26
4-1　調査前
4-2　1T（南から）
4-3　2T（南から）
4-4　3T（南から）
4-5　4T（南から）
4-6　5T（南から）
4-7　6T（南から）
4-8　7T（南から）
4-9　5T土層断面（西から）
4-10 1T焼土確認土坑（南から）
4-11 8T（南から）
4-12 9T（南から）
4-13 10T（南から）
4-14 11T（南から）
4-15 5T住居跡（南から）
4-16 9T住居跡（南から）
4-17 10T住居跡（南から）

萩原遺跡（平23地点）・・・28
5-1　1T1号溝（南から）
5-2　1T土層断面（西から）

志柄１遺跡（平23地点）・・・29
6-1　調査前
6-2　1T（東から）
6-3　2T（東から）
6-4　2T1号溝土層断面（西から）

長竹遺跡（平23地点）・・・29
7-1　1T（東から）
7-2　1T土層断面（南から）

【出土遺物】
新宿二丁目遺跡（平23地点）・・・30
八方遺跡（平23地点）
加法師遺跡（平23地点）
北近藤第一地点遺跡（平23地点）
萩原遺跡（平23地点）
志柄1遺跡（平23地点）
長竹遺跡（平23地点）

第 1 章 館林市の環境

1. 地理的環境

第1図 館林市の位置

館林市は、群馬県の南東部、関東地方のほぼ中央部に位置する人口約8万人の都市である。市域は東西約15.5km、南北約8.0kmと東西に長く、総面積は約60km²である。北は渡良瀬川を隔てて栃木県に、東は邑楽郡板倉町に、南は谷田川を隔てて邑楽郡明和町に接する。明和町の南には利根川が東流し、群馬県－埼玉県の県境となっている。県庁所在地の前橋市までは約50km、東京（台東区浅草）へは約65kmの距離にある。

群馬県東南部は、「邑楽・館林」地域と呼ばれ、群馬県の中では低地に位置している。館林市の標高は、15m台（大島町東部）から33m台（高根町）であり、おおむね平坦であるといえる。本市の地形を概観すると、「低台地」と「低地帯」に分けることができる。市域中央部に「低台地」が東西に延びるように所在し、その周辺に「低地帯」が広がる。

この「低台地」は、「邑楽・館林台地」と呼ばれる洪積台地であり、太田市高林から本市中央部を東西に延び、隣接する板倉町まで続いている。また、大泉町古海から本市高根に至る台地の北側に沿って、日本最古の砂丘の一つである埋没河畔砂丘が走っており、本市最高標高点はこの上にある。

「低地帯」は、おもに利根川や渡良瀬川によって形成された沖積低地である。台地北側の低地帯には、旧河道、微高地や自然堤防が目立ち、一方、台地南側の低地帯では、茂林寺沼など大小の沼や湿地帯が形成されている。こうした台地や低地などからなる本市の地形は、北西から南東へ向かって緩く傾斜する傾向が見られ、台地面と低地面の比高差も北部で大きく南部では小さくなっている。「邑楽・館林台地」と呼ばれる洪積台地は、沖積低地から延びる多くの谷地により樹枝状に開析されている。そのなかでも市内最大の谷は、本市中央部を東流する鶴生田川および城沼にかけての谷で、台地を南北に二分している。こうした洪積台地を開析する谷には、他にも茂林寺沼、蛇沼、近藤沼などの池沼を伴うものが多く、本市景観の特徴のひとつになっている。

2. 歴史的環境

館林市内に所在する遺跡は、145ケ所である。昭和63年刊行の『館林市の遺跡』（市内遺跡詳細分布調査報告書）には、そのうちの144ケ所について詳細が報告されている。

分布調査による採集遺物から大別した、各時代の遺跡数は次のとおりである。

旧石器時代の遺跡3遺跡、縄文時代の遺跡13遺跡（縄文土器のみ採取できた遺跡）、弥生時代の遺跡は0（弥生時代の遺物を採取できた遺跡2遺跡）、古墳時代～平安時代の遺跡（土師器の出土した遺跡）96遺跡（うち縄文時代の遺物も採取できる遺跡は23遺跡）、古墳は17遺跡（古墳総数25基）、中世生産址1遺跡、中世城館址12遺跡、近世城館址2遺跡である。（ただし、複合した時代の遺物散布地が見られるため、その中心になると考えられる時代でまとめたものである。）

これらの遺跡の分布は、地形的な特徴と大きく関わっていることが観察される。館林市内に所在する遺跡の時代的変遷と地形的な関わりを概略してみると、次のようになる。

≪旧石器時代≫

この時代の遺跡は、市内の標高の高い地域に集中する傾向を見せる。邑楽・館林台地の北西に沿って、鞍掛山脈と地元で呼ばれる内陸河畔砂丘（自然堤防）上に、その多くが確認されている。

≪縄文時代≫

この時代になると、遺跡数が増えるとともに洪積台地上に営まれるようになる。前期や中期の遺跡は、池沼や谷地を望む舌状台地上の平坦面に確認されることが多い。後期以降は遺跡数は減少し、その所在は、台地の斜面から微高地に移る傾向がある。後・晩期の包含層等は低地（沖積地）におよぶ。

≪弥生時代≫

弥生時代の遺跡として確認されたものはないが、微高地や台地の斜面等で、遺物などがわずかに確認されている。

≪古墳時代≫

前期の遺跡は少ない。遺跡は、洪積台地の斜面からテラス状の微高地に所在することが多く、この傾向は、弥生時代の遺物散布に似ている。中期には、遺跡の数が増えるとともに、その所在は、台地の斜面から台地上の平坦面へと移行する。後期には、遺跡数は増大し、台地上の平坦部

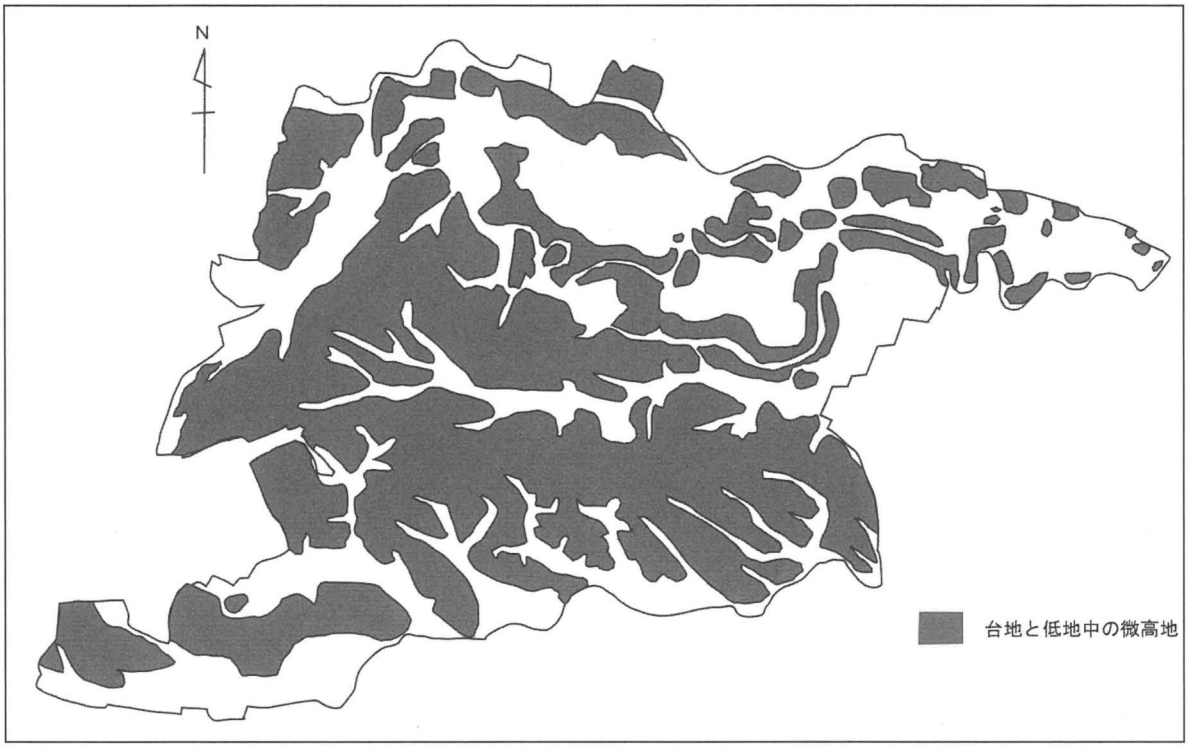
に所在する場合が多い。墳墓としての古墳は、25基が残存している。古墳群が2ケ所あり、一つは日向地区を中心とする邑楽・館林台地上、もう一つは高根地区を中心とする内陸河畔砂丘上にある。その他単独のものも多いが、そのいずれもが谷や谷地等をみおろす洪積台地上に所在している。

≪奈良・平安時代≫

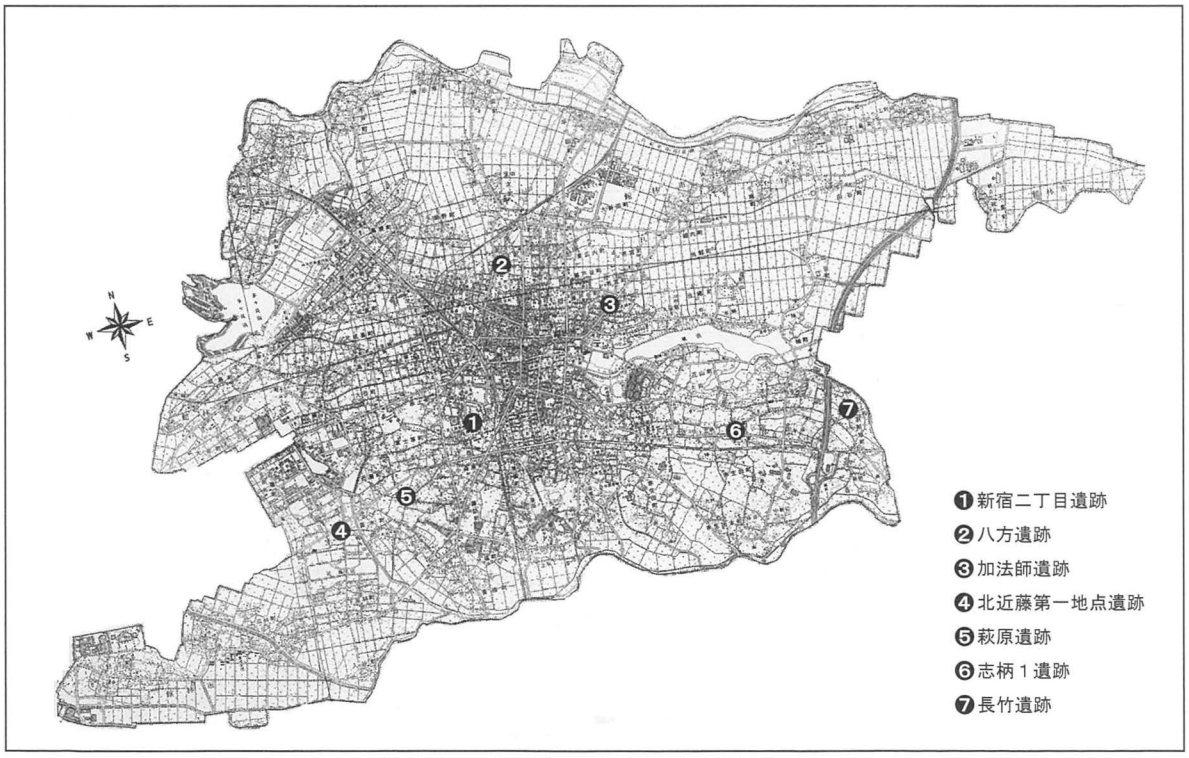
この時代の遺跡は急増する。台地の内部や全面で遺物の採取ができることから、この時代以降は台地上に普遍的に集落等が営まれてきたことを示唆している。

≪中世・近世≫

この時代の城館址については、伝説的な要素が多く実体ははっきりしないが、中世末には館林城が築かれ、近世には館林城を中心として城下町が形成された。



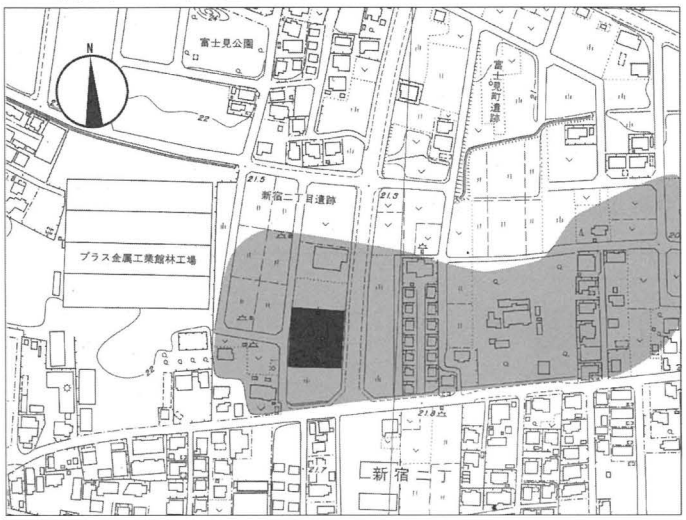
第2図 館林市の地形概念図



第3図 平成23年度調査遺跡の位置

第 2 章 確認調査の概要

1. 新宿二丁目遺跡（平23地点）



第4図 新宿二丁目遺跡（1：5000）

所在地　館林市新宿二丁目169-2、171-1
調査原因　宅地造成
調査期間　平成23年4月18日～4月22日
調査面積　46.5㎡

（1）遺跡と周辺の環境

新宿二丁目遺跡は、館林市の市街地に所在する台地の南部にあたり、北に鶴生田川の支谷を望む台地の北部に位置する。近年、遺跡周辺では急激に宅地化が進んでいる。平成22年度の確認調査では、中世から近世にかけての柵列を検出している。

（2）調査の概要

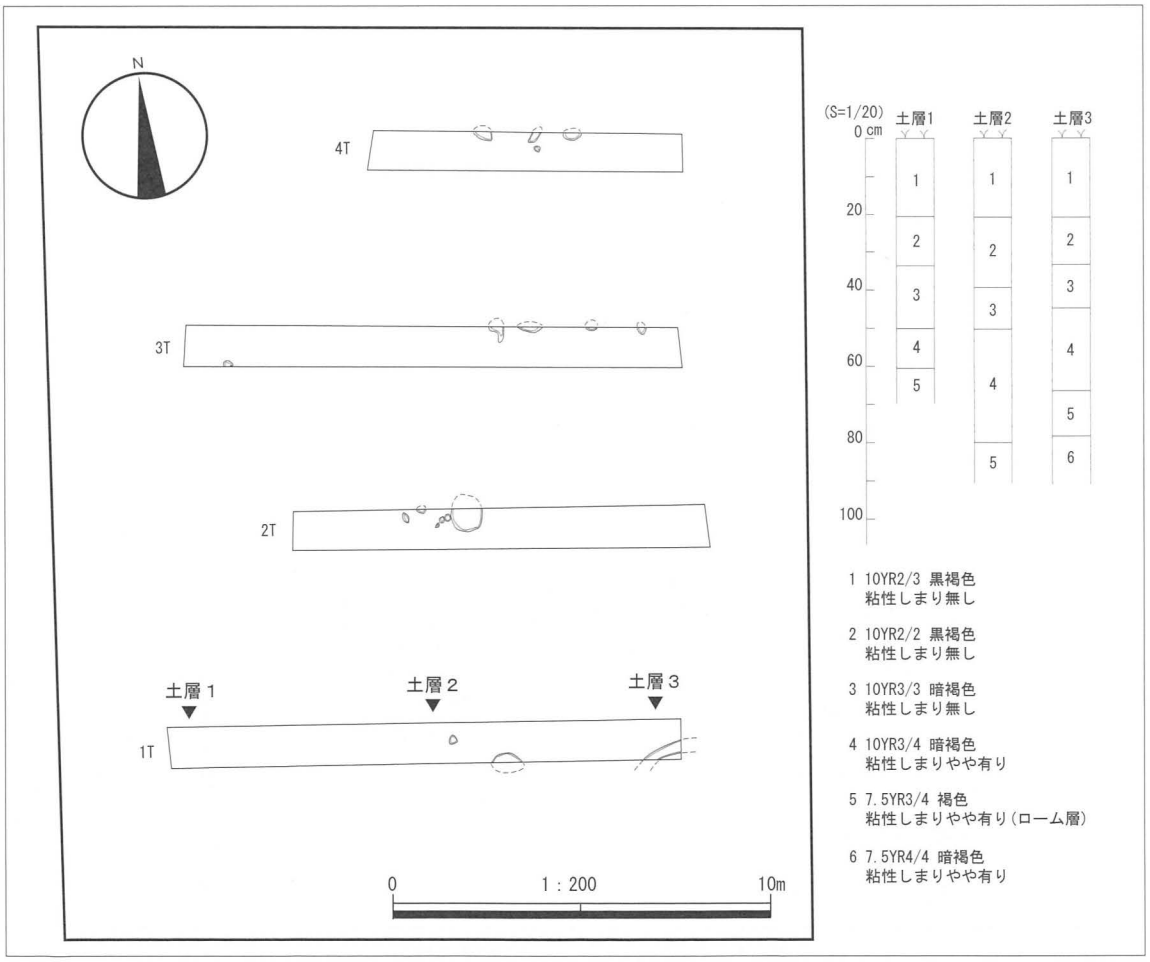
新宿二丁目遺跡（平23地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ4本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除しつつ関東ローム層まで掘り下げた。その後、土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の検出を行った。現地表面からローム層までの深度は、各トレンチで約100cmであった。

（3）検出した遺構

土坑・ピットを数基検出したが、その性格は不明である。

（4）出土した遺物

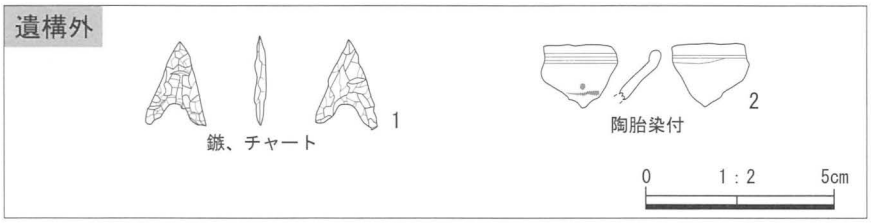
チャート系石材で作られた鏃や、近世の瀬戸美濃産の陶器片が出土したが、何れも遺構に伴うものではない。



第5図 新宿二丁目遺跡トレンチ配置図（1：200）・土層図（1：20）

（５）まとめ

平成22年度の調査で検出した遺構に関連する遺構の存在が予想されたが、保存の対象となる遺構は検出できなかった。



第6図　新宿二丁目遺跡出土遺物実測図（1：2）

2. 八方遺跡（平23地点）

第7図　八方遺跡（1：5000）

所在地　館林市岡野町字八方19-2
坂下町字八形3236
調査原因　宅地造成
調査期間　平成23年4月21日～5月1日
調査面積　97.5㎡

（１）遺跡と周辺の環境

八方遺跡は、邑楽・館林台地の北縁で、北と東は渡良瀬川の氾濫原となる沖積低地に面した馬の背状の舌状台地上に位置する。遺跡の北には、旧渡良瀬川の河道跡が残っている。過去、十数回の調査（昭和57年～61年度、平成5・7・8・11・13・17・18・22年度）でも、古墳時代の住居跡や中世の遺構を検出している。

（２）調査の概要

八方遺跡（平23地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ5本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除しつつ関東ローム層まで掘り下げた。その後、土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の検出を行った。現地表面からローム層までの深度は、東の調査区（岡野町字八方19-2）で約50cm。西の調査区（坂下町字八形3236）では、約120cm～180cm以上であった。

（３）検出した遺構

トレンチ内を人力で精査した結果、古墳時代の竪穴式住居跡を1軒、中世～近世初頭と考えられる井戸を5基、溝を8条、また土坑・ピットも多数検出した。

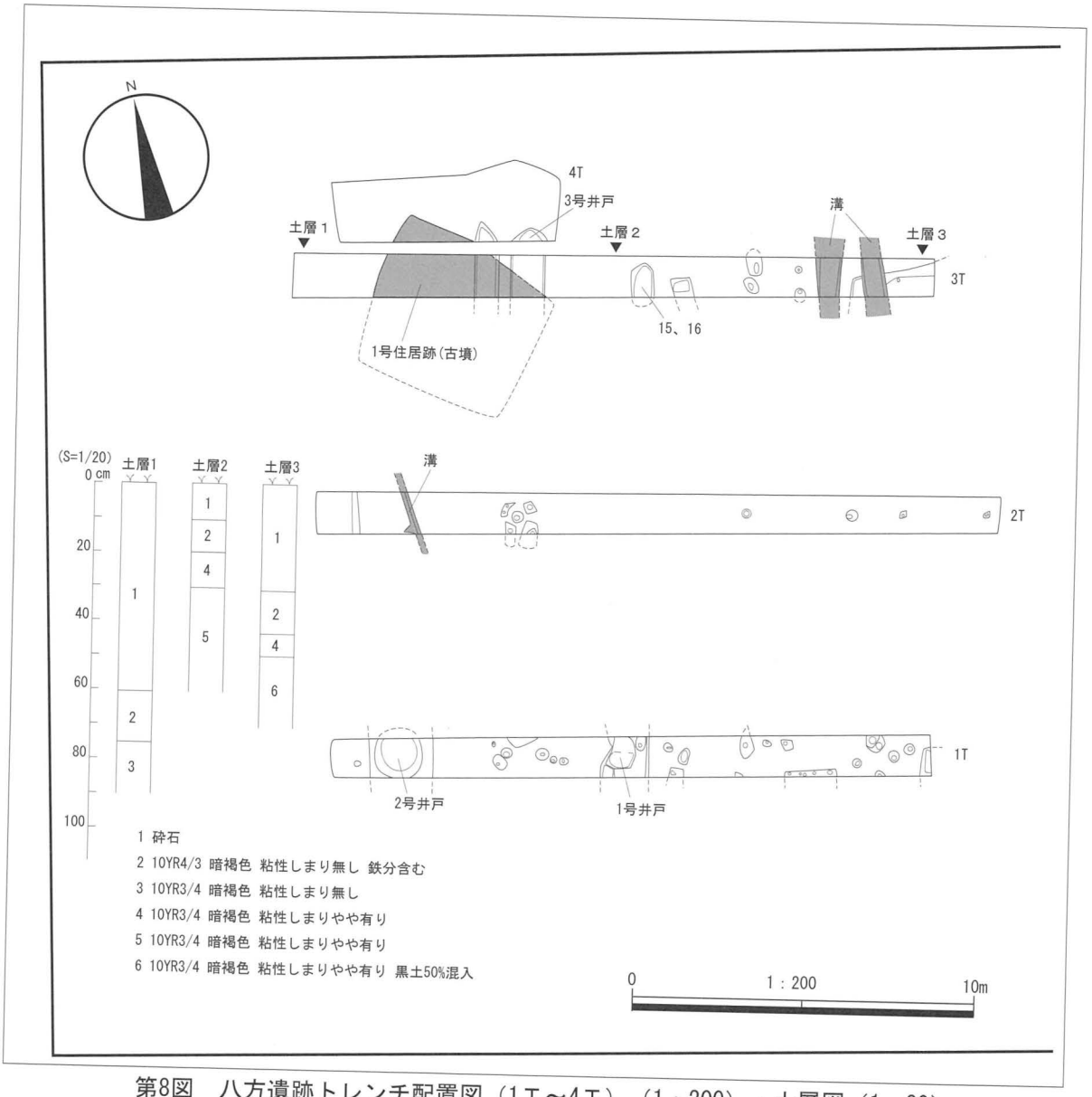
（４）出土した遺物

1号住居跡からは、古墳時代中期の高杯が出土した。その他の遺構からは、中世～近世初頭のカワラケや瀬戸美濃産の陶磁器、中世の板碑片が出土した。

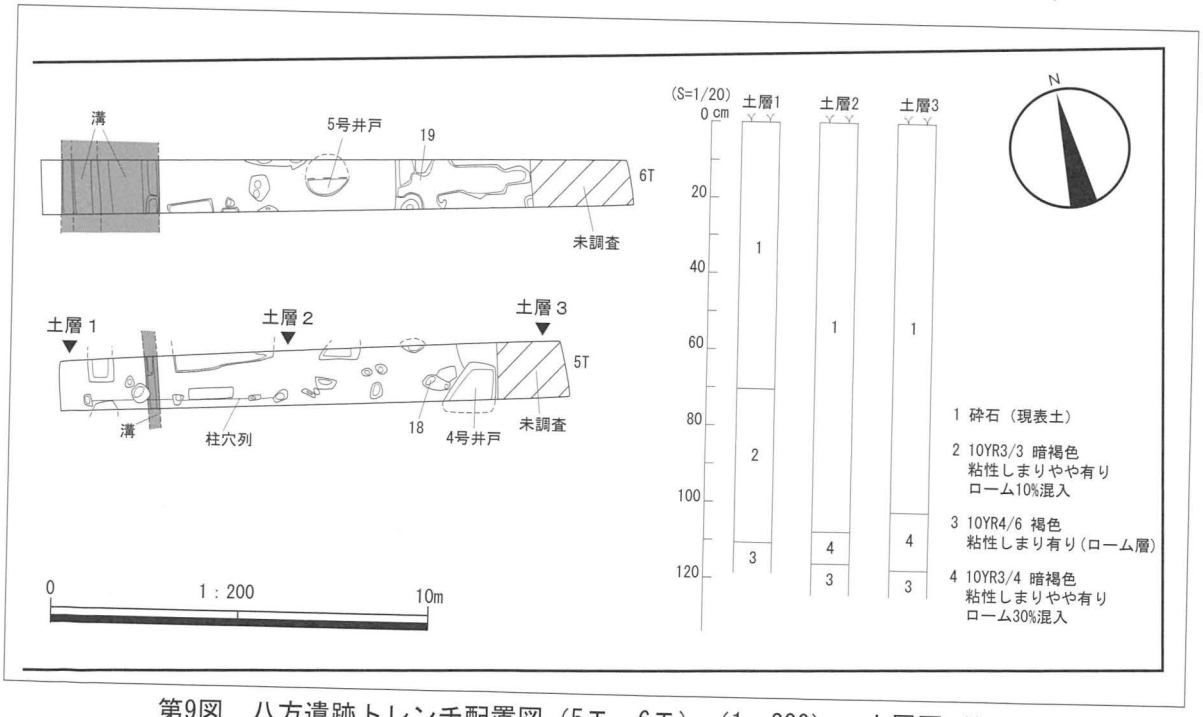
（５）まとめ

本遺跡では、過去に古墳時代の集落跡を確認している。今回検出した古墳時代の住居跡も、集落を構成する遺構と考えられる。また、中近世の遺物が多く出土したのは、恐らく中世から近世初頭までは館林と佐野を結ぶ街道が遺跡内を南北に貫くように走っていたことと、現在は遺跡の北約2km先を流れている矢場川が、近世の初めには遺跡から北約100m先を流れていたことから、渡河点として栄えた街道沿いの集落であったためと推測される。

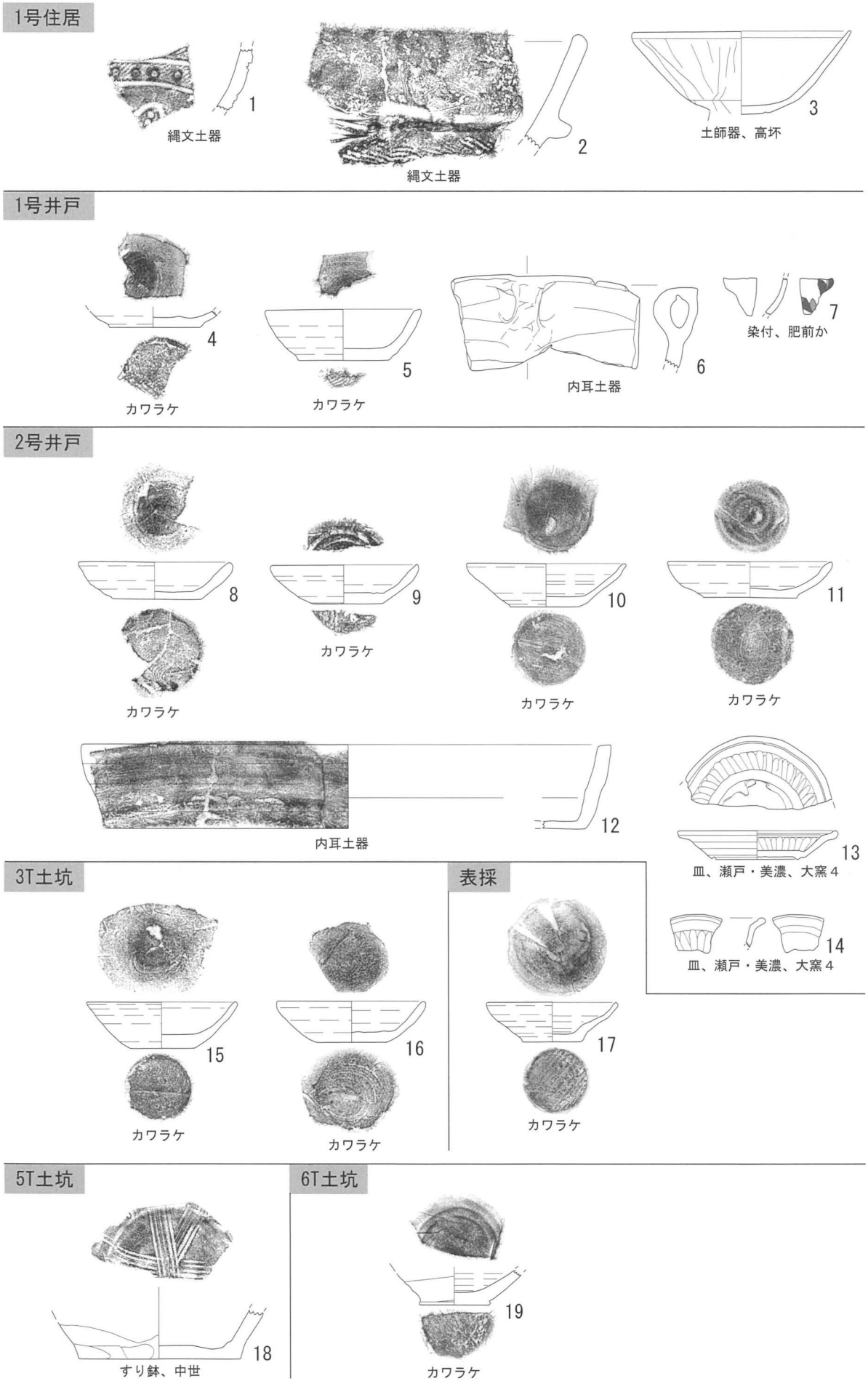
今回の調査期間中、調査区付近では数多くの土器片等が採取できたので、参考として写真を掲載した。なお遺構の保存については、本発掘調査も視野に入れて事業者と協議中である。



第8図　八方遺跡トレンチ配置図（1T～4T）（1：200）・土層図（1：20）



第9図　八方遺跡トレンチ配置図（5T、6T）（1：200）・土層図（1：20）



第10図　八方遺跡 出土遺物実測図（1：4）

3. 加法師遺跡（平23地点）

第11図 加法師遺跡（1：5000）

所在地　館林市加法師町2174-12、2174-21
調査原因　個人住宅
調査期間　平成23年5月24日～6月8日
調査面積　36㎡

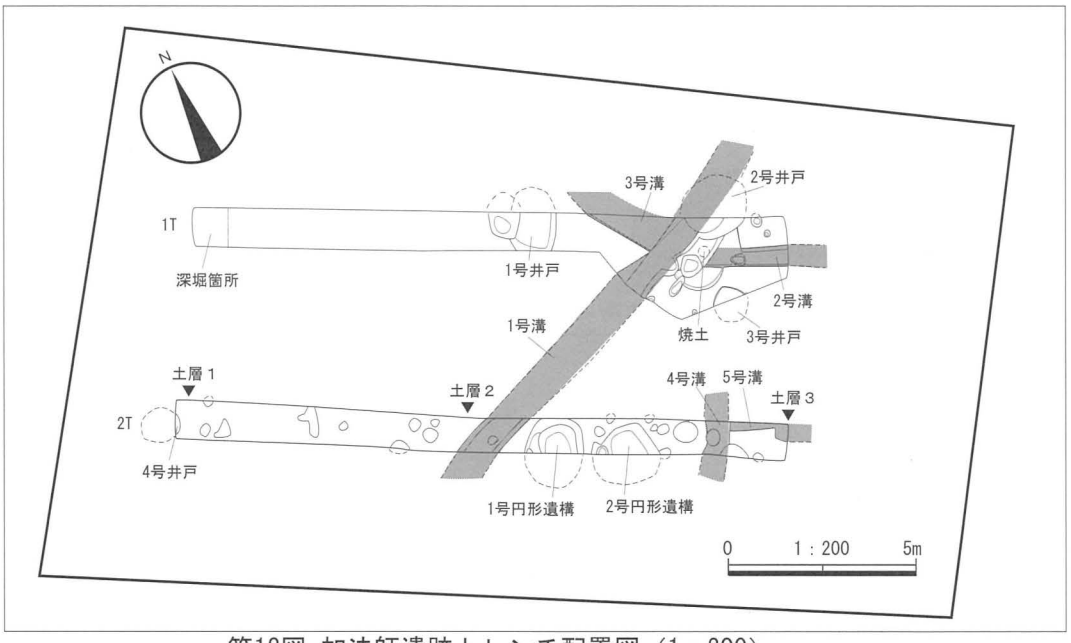
（1）遺跡と周辺の環境

加法師遺跡は、邑楽・館林台地の北東部に位置する。近世には、武士の居住域となっており、近年まで館林城を取り囲む土塁と堀が残っていたが、現在は宅地化が進んでいる。

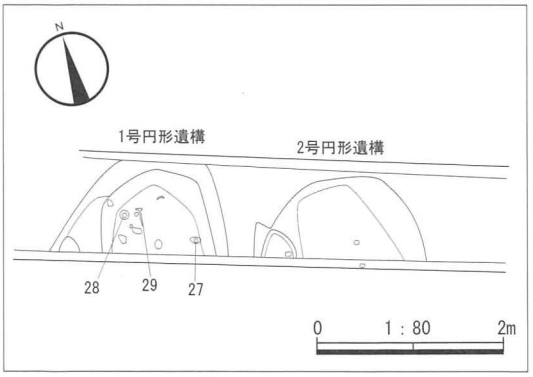
過去に数回行った調査（平成7・8・11・13・20年度）では、縄文時代中期・古墳時代前期の遺構を検出している。併せて中世～近世初頭の遺構も検出している。

（2）調査の概要

加法師遺跡（平23地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ2本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除しつつ関東ローム層まで掘り下げた。その後、土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の検出を行った。現地表面からローム層までの深度は、各トレンチで約30～60cmであった。

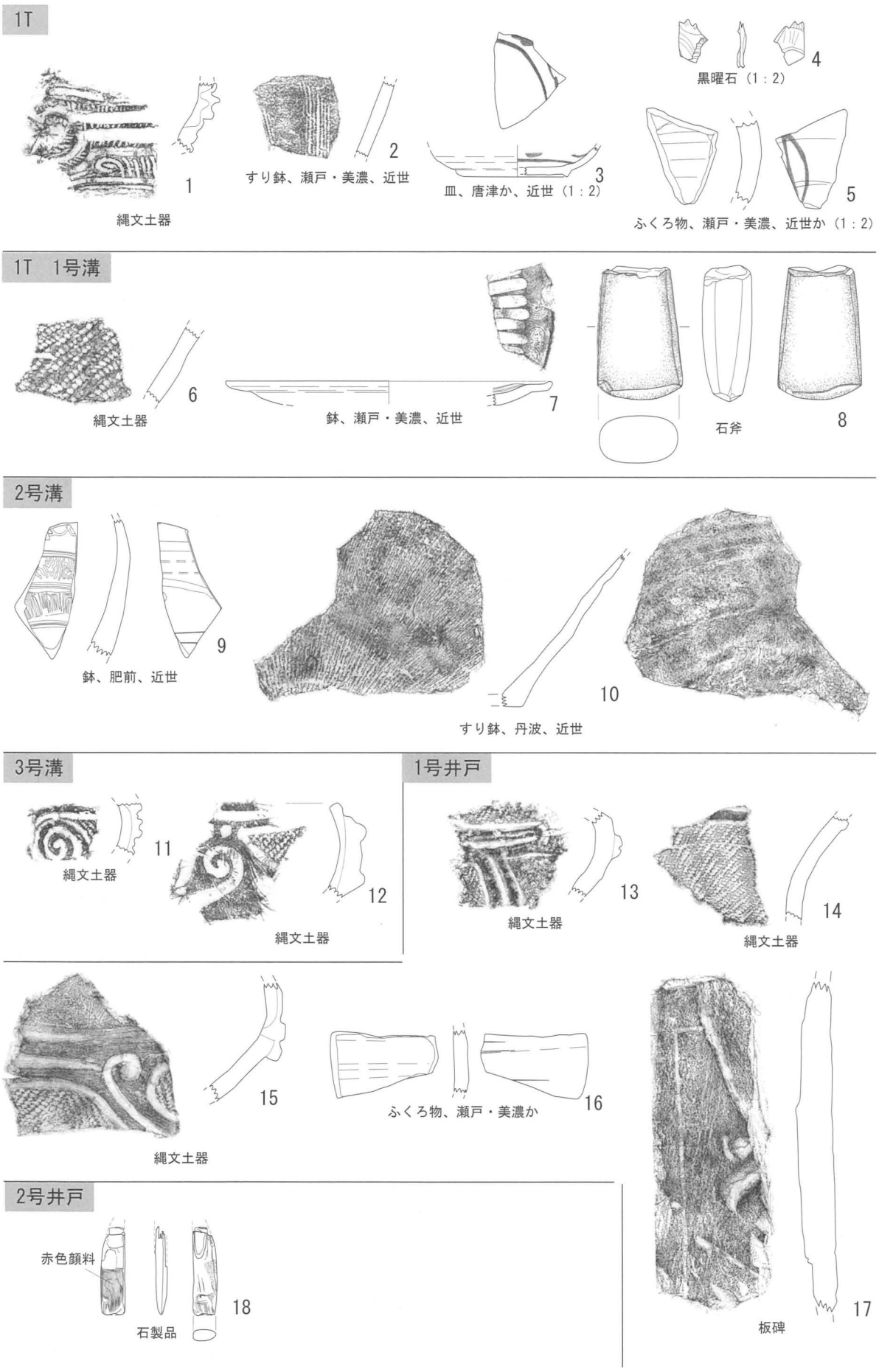


第12図 加法師遺跡トレンチ配置図（1：200）

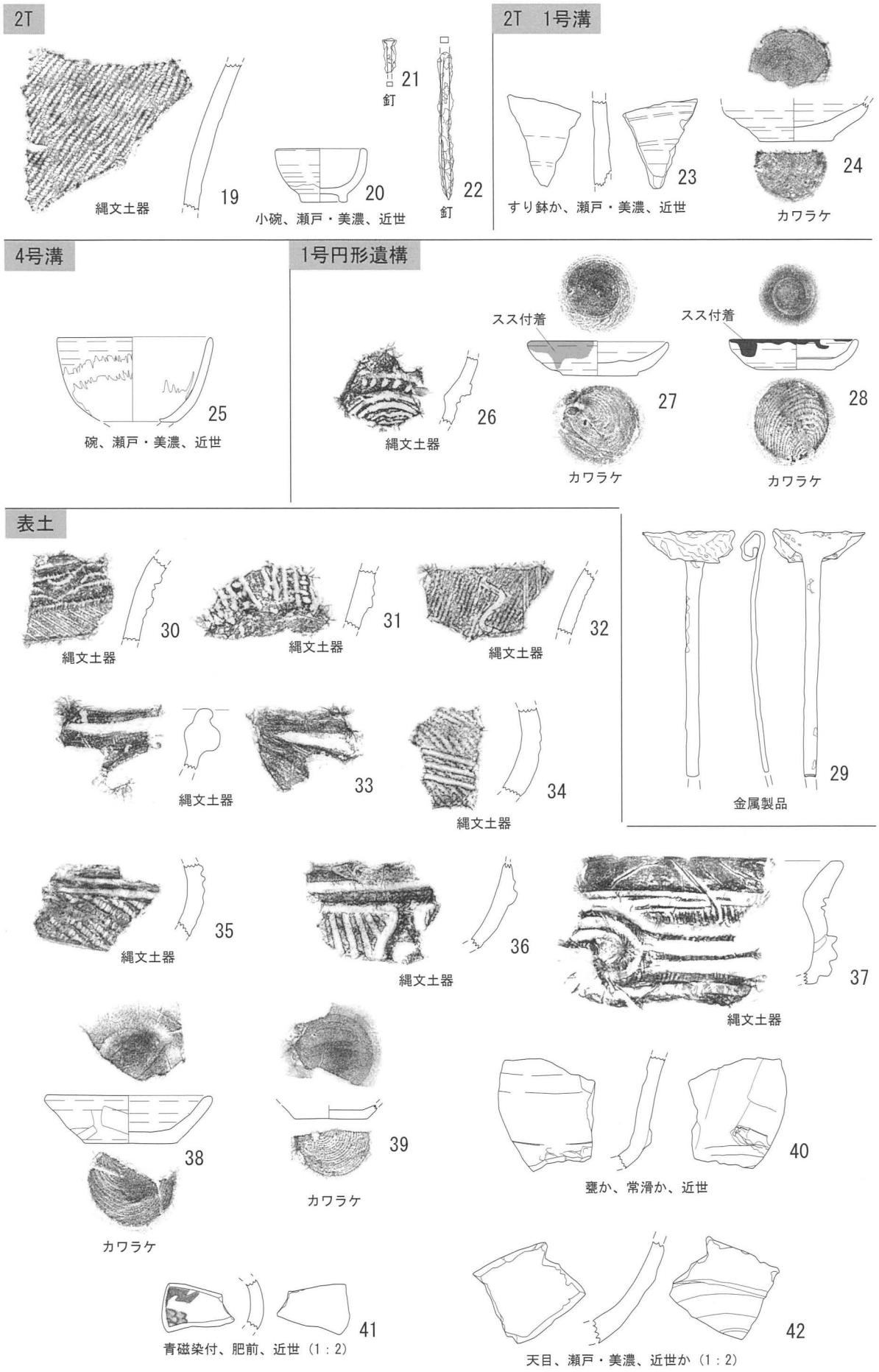


第13図 加法師遺跡2Ｔ内遺構（1：80）

第14図 加法師遺跡土層図（1：20）



第15図　加法師遺跡出土遺物実測図（1：4、1：2）



第16図　加法師遺跡出土遺物実測図（1：4、1：2）

（３）検出した遺構

井戸を4基、溝を5条検出した。いずれも中世～近世初頭に開削されたと考えられる。土坑やピットも多数検出した。

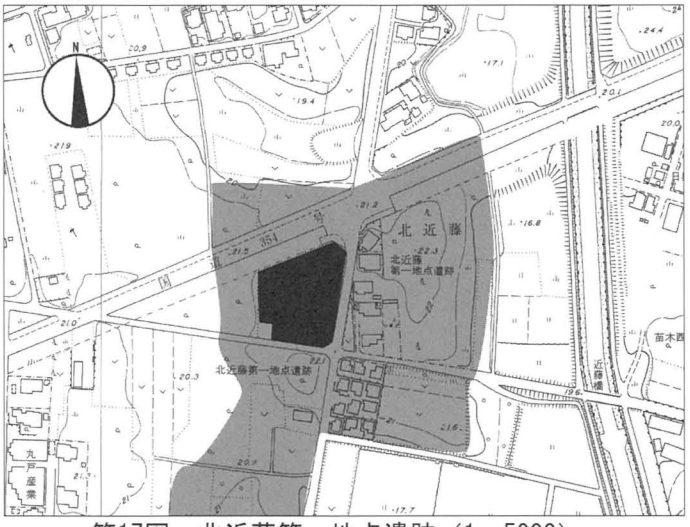
（４）出土した遺物

縄文時代中期の土器片や、石斧が出土している。その他、近世初頭のカワラケや瀬戸美濃産の陶器、板碑、墓石片、仏具と考えられる金属製品が出土している。

（５）まとめ

本遺跡は、過去の調査で縄文時代の住居跡を検出していることから、縄文時代の遺構の存在を想定していたが、今回の調査では確認できなかった。調査区からは、多くの縄文土器片が出土したが、西隣には近世からの寺である教王院があるため、中世末から近世に開削された井戸や土坑によって縄文時代の遺構が破壊されたようである。また、井戸や土坑から仏具のようなものが出土していることから、寺院に関連する遺構と考えられる。

4. 北近藤第一地点遺跡（平23地点）



第17図　北近藤第一地点遺跡（1：5000）

所在地　館林市苗木町字北近藤2517-5、2518-4、2519-2、2520-2、2521-2、2523-2

調査原因　店舗建築

調査期間　平成23年6月7日～6月24日

調査面積　435㎡

（１）遺跡と周辺の環境

北近藤第一地点遺跡は、邑楽・館林台地の南辺に位置する。南に近藤沼があり、そこから北に延びる深い谷の西岸にある広い台地から斜面にかけて位置している。遺跡の周辺は、耕作地や雑木林が多く残る。過去に数回行われた調査（昭和56・62・63年度・平成7・9・11・14・16年度）時に、古墳時代の住居跡93軒を中心に多くの遺構を確認していることから、古墳時代を中心とした大集落であったと考えられる。

（２）調査の概要

北近藤第一地点遺跡（平23地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ11本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除しつつ関東ローム層まで掘り下げた。その後、土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の検出を行った。現地表面からローム層までの深度は、各トレンチで約20～30cmであった。

（３）検出した遺構

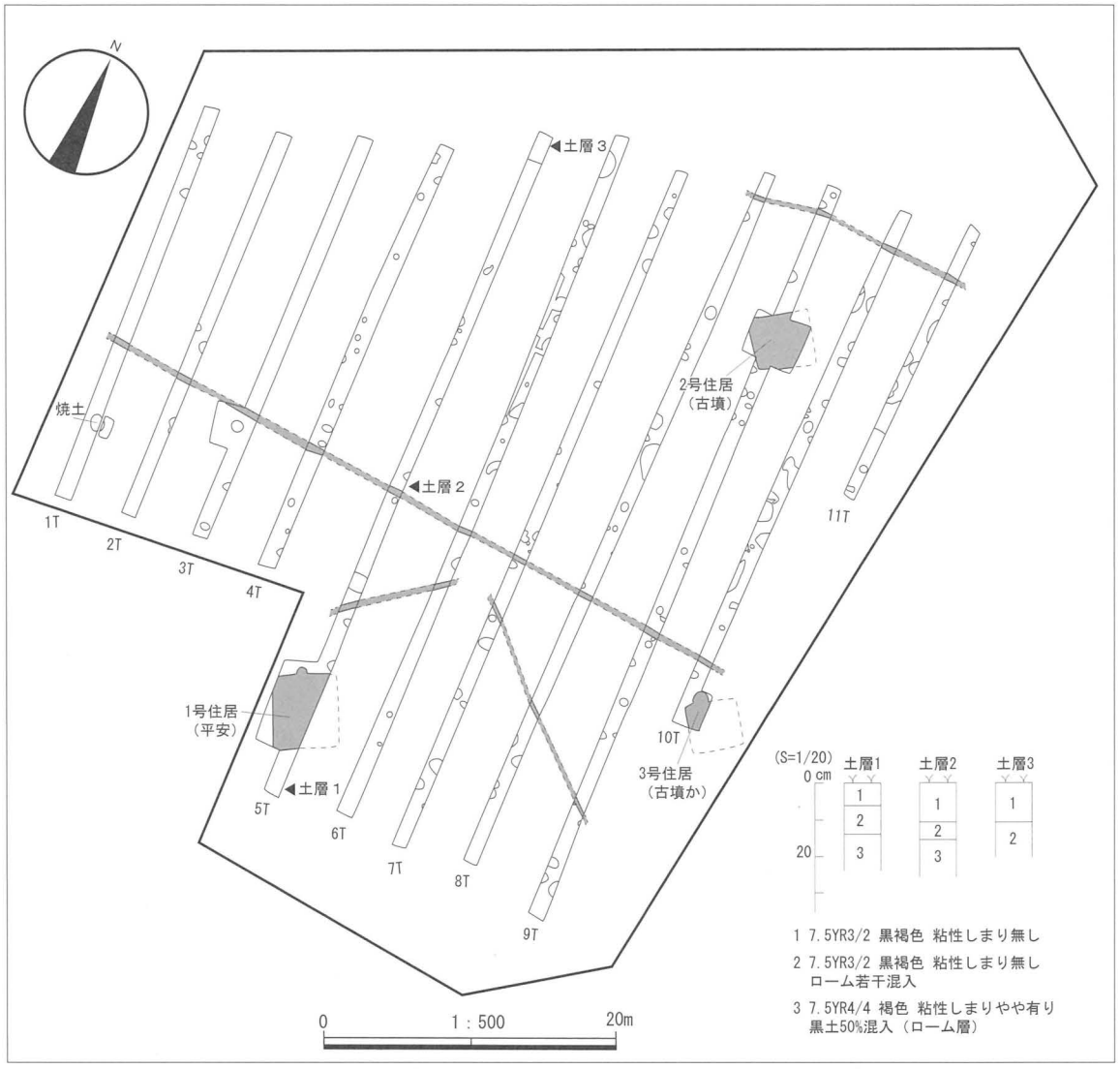
古墳時代の住居跡2軒と平安時代の住居跡1軒を検出した。その他、溝を4条検出したが、塩化ビニル管が埋設されていたことから現代に開削されたものである。土坑やピットを多数検出したが、その時代や性格は不明である。

（４）出土した遺物

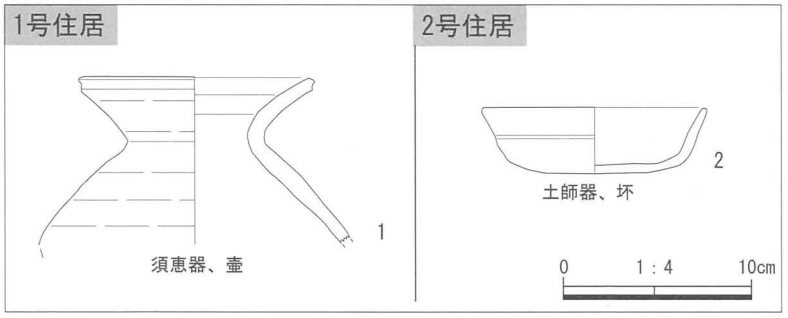
古墳時代の住居跡からは土師器片が出土し、平安時代の住居跡からは須恵器の壷が出土した。

（５）まとめ

今回検出した住居跡は、過去に確認した集落跡の一部である。住居跡の保存について事業者と協議を行い現地保存の措置を図った。

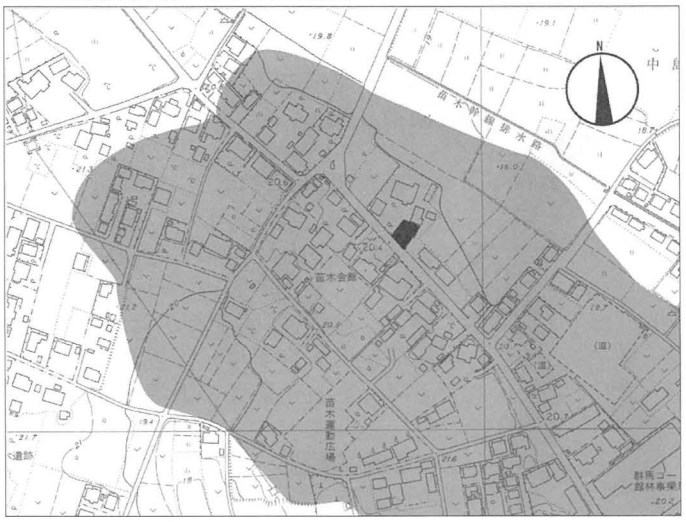


第18図 北近藤第一地点遺跡トレンチ配置図（1：500）・土層図（1：20）



第19図 北近藤第一地点遺跡出土遺物実測図（1：4）

5. 萩原遺跡（平23地点）



第20図 萩原遺跡（1：5000）

所在地　館林市苗木町字中島1717-2
調査原因　個人住宅
調査期間　平成23年7月22日～7月25日
調査面積　12㎡

（1）遺跡と周辺の環境

萩原遺跡は、邑楽・館林台地の南辺に位置する。近藤沼の谷の北にある大きな舌状台地上の全体に広がっている。遺跡の周辺には耕作地が多く残る。過去、2回調査（平成3・12年度）が行われた時、中世以降に開削されたと推定される溝を数条確認している。

（2）調査の概要

萩原遺跡（平23地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ1本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除しつつ関東ローム層まで掘り下げた。その後、土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の検出を行った。現地表面からローム層までの深度は、約40cmであった。

（3）検出した遺構

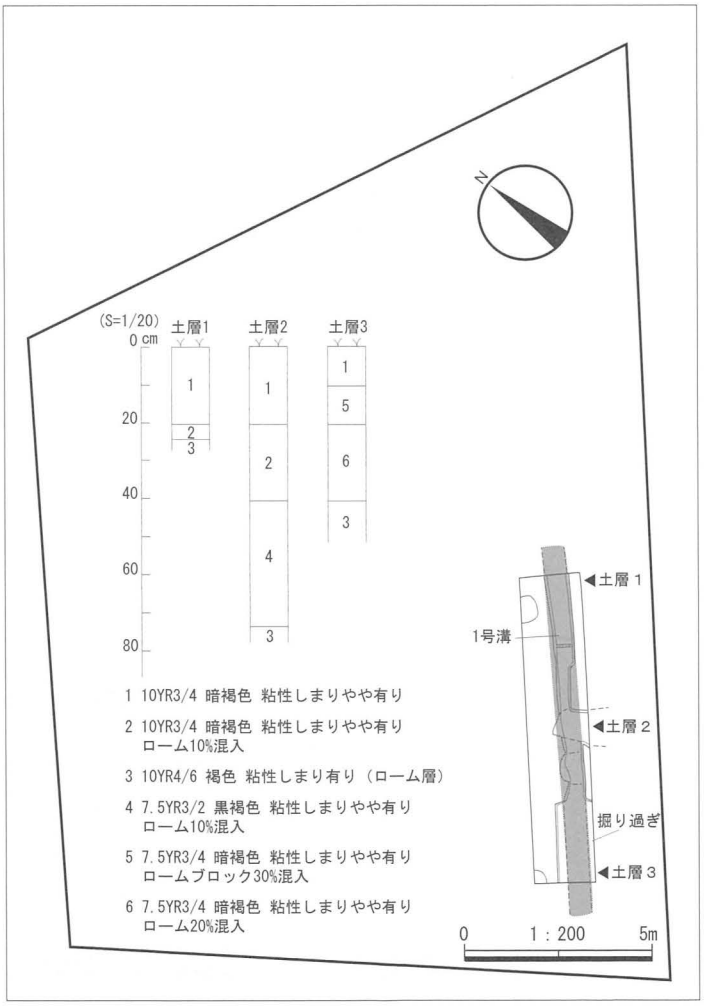
溝を1条検出した。溝はおよそ東西方向に走行する。幅は約60cmである。断面は逆台形状をしている。

（4）出土した遺物

溝からは、近世の内耳土器片や近代の磁器片が出土した。

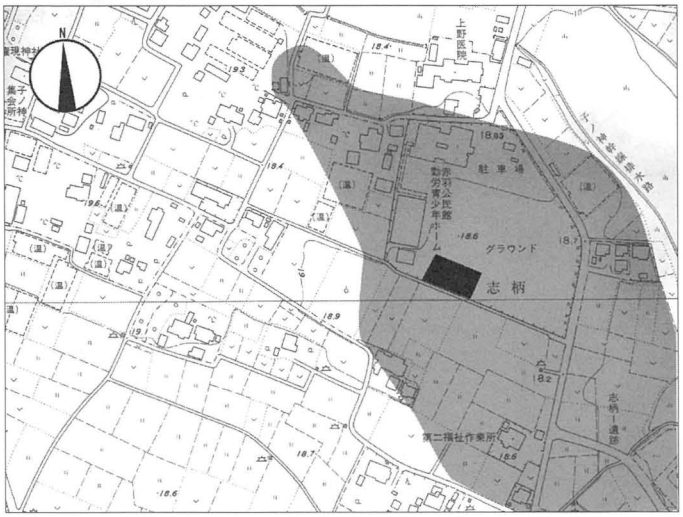
（5）まとめ

溝は、出土した遺物等から近世以降に開削されたと考えられるが、性格は不明である。



第21図　萩原遺跡トレンチ配置図（1：200）・土層図（1：20）

6. 志柄1遺跡（平23地点）



第22図 志柄1遺跡（1：5000）

所在地　館林市赤生田町字志柄1959-2
調査原因　その他（児童クラブ建設）
調査期間　平成23年10月12日～10月28日
調査面積　36㎡

（1）遺跡周辺の環境

志柄1遺跡は、谷田川から北西に延びる細い谷に挟まれた洪積台地上に広がる遺跡である。遺跡の周辺には、耕作地が多く残る。過去に3回調査が行われており（平成5・7・17年度）、近世に開削されたと考えられる数条の溝等が確認された。

（2）調査の概要

志柄1遺跡（平23地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ2本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除しつつ関東ローム層まで掘り下げた。その後、土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の検出を行った。現地表面からローム層までの深度は、約50cmであった。

（3）検出した遺構

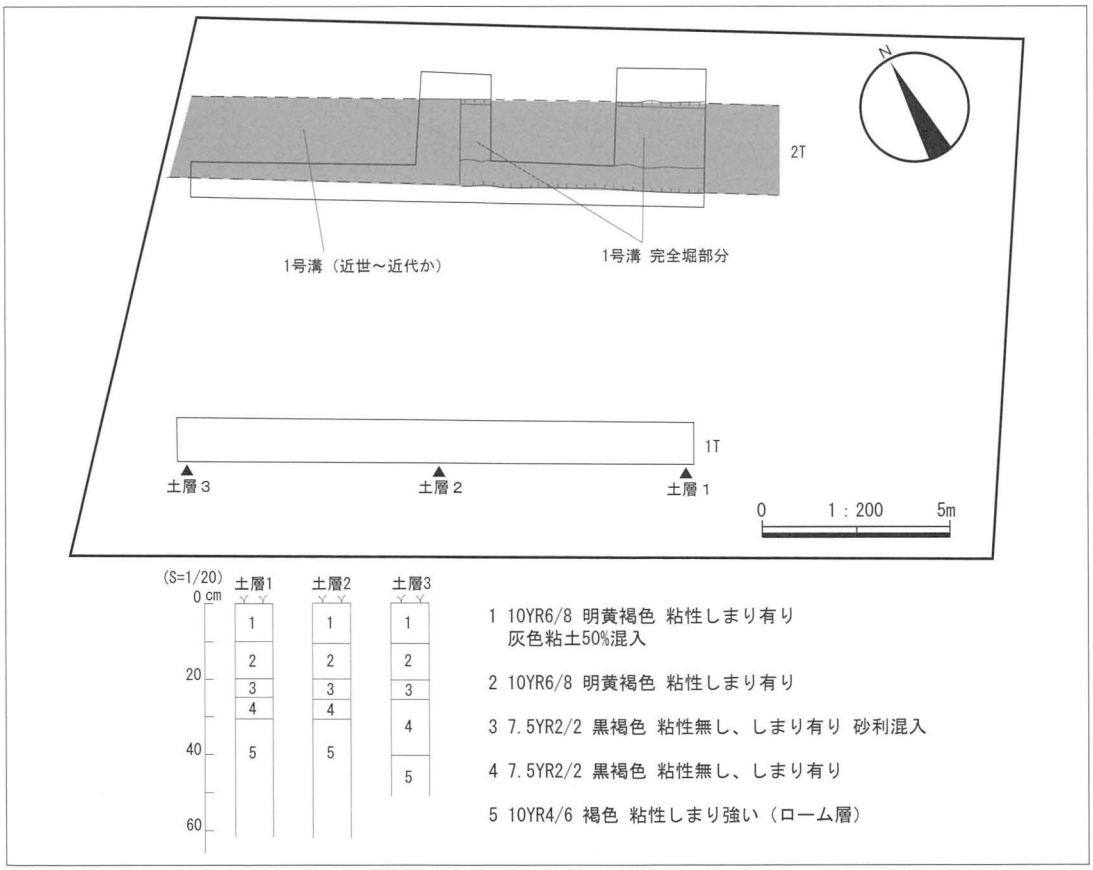
溝を1条検出した。溝はおよそ東西方向に走行する。幅は約60cmである。断面は逆台形状をしている。湧水があり、掘削が困難なため遺構の底は確認できなかった。

（4）出土した遺物

溝からは、近世の瀬戸美濃産の陶器片が出土した。

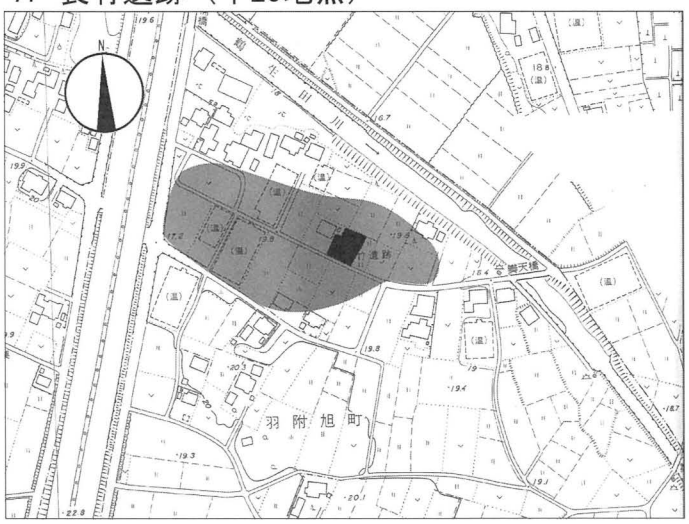
（5）まとめ

溝は、出土した遺物等から近世以降に開削されたと考えられるが、性格は不明である。



第23図　志柄1遺跡トレンチ配置図（1：200）・土層図（1：20）

7. 長竹遺跡（平23地点）



第24図 長竹遺跡（1：5000）

所在地　館林市羽附旭町字長竹 1059-2、1061-3
調査原因　個人住宅
調査期間　平成24年2月4日
調査面積　7㎡

（1）遺跡と周辺の環境

長竹遺跡は、邑楽・館林台地の南辺に位置する。遺跡の周辺には、耕作地が多く残る。過去に調査は行われていない。

（2）調査の概要

長竹遺跡（平23地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ1本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除しつつ関東ローム層まで掘り下げた。その後、土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の検出を行った。現地表面からローム層までの深度は、約80cmであった。

（3）検出した遺構

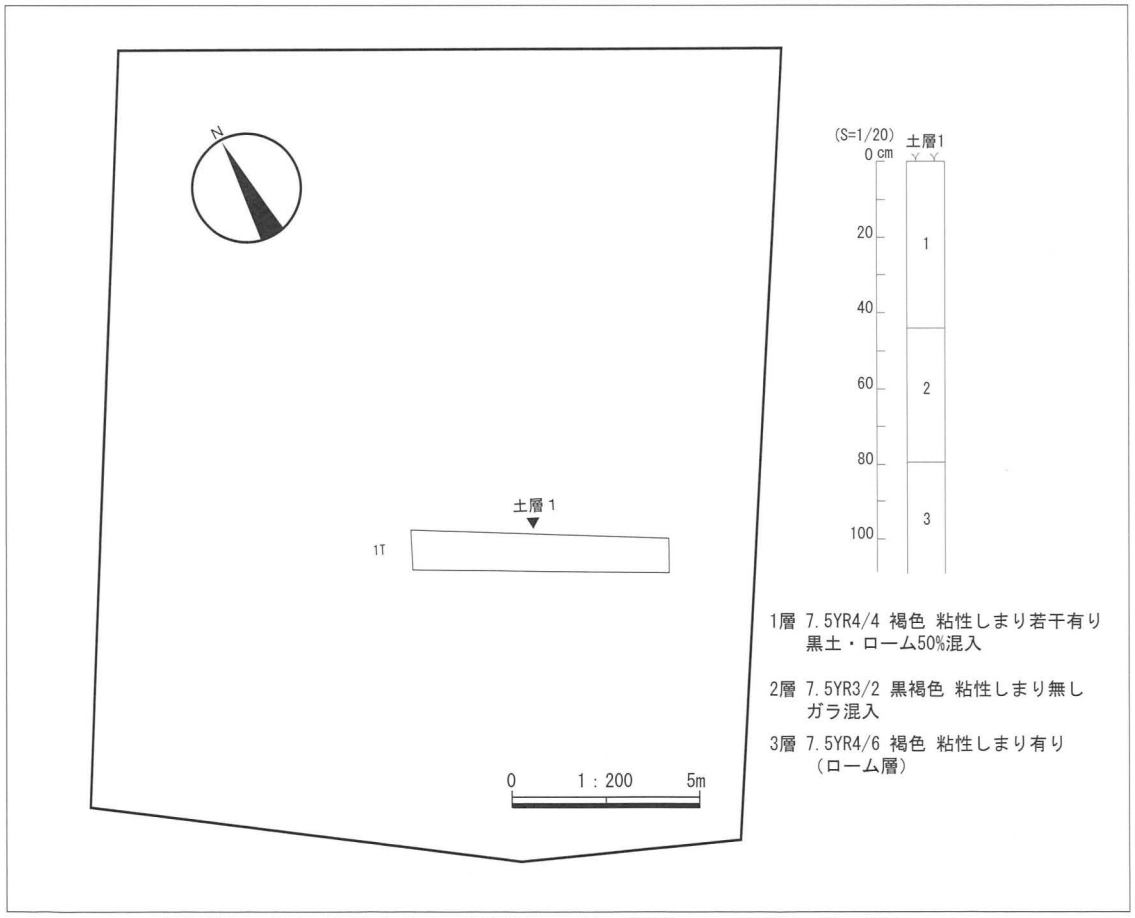
以前建築物があったため地下の状況は非常に悪い。過去に整地等を行っており、ローム層の上部は削平されているようである。遺構は確認できなかった。

（4）出土した遺物

土師器片と思われる土器片が数点出土したが、遺構に伴うものではない。

（5）まとめ

保存の対象となる遺構は確認出来なかった。

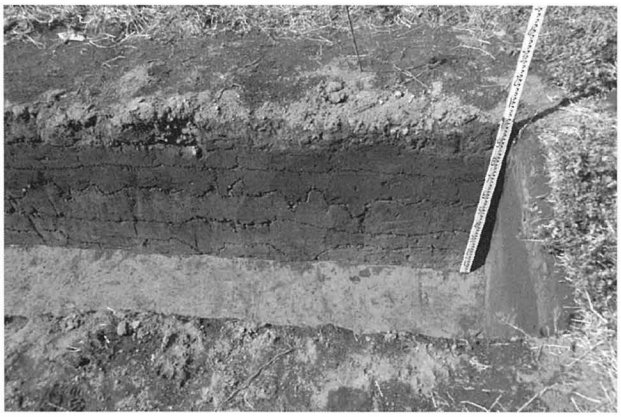


第25図　長竹遺跡トレンチ配置図（1：200）・土層図（1：20）

写 真 図 版

新宿二丁目遺跡（平23地点）

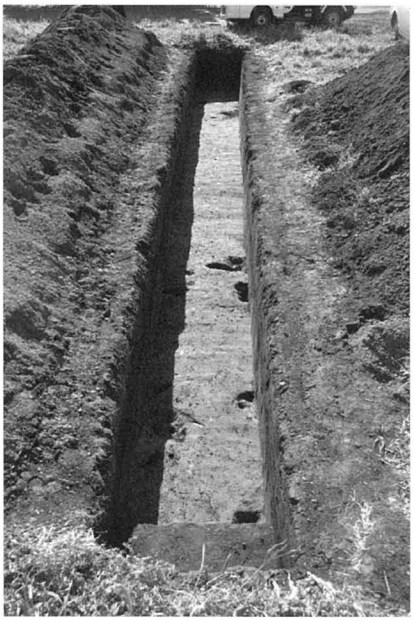
1-1 調査地



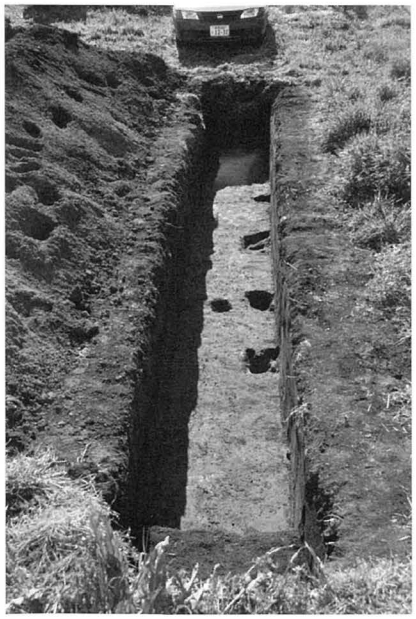
1-2 1T土層断面（南から）

1-3 1T（東から）

1-4 2T（東から）



1-5 3T（東から）



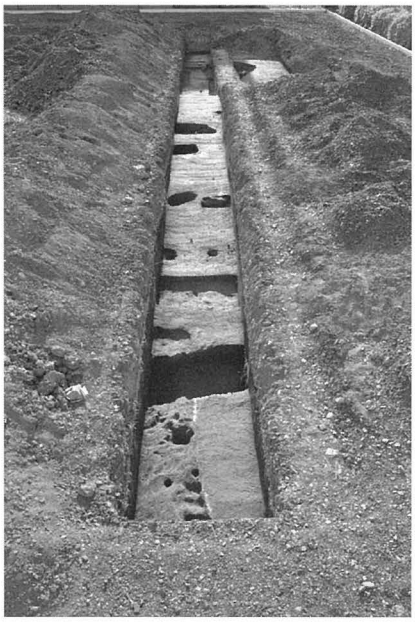
1-6 4T（東から）

八方遺跡（平23地点）

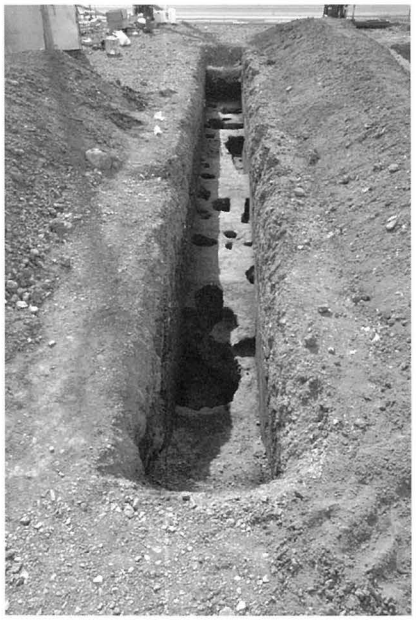
2-1 調査前

2-2 1T（東から）

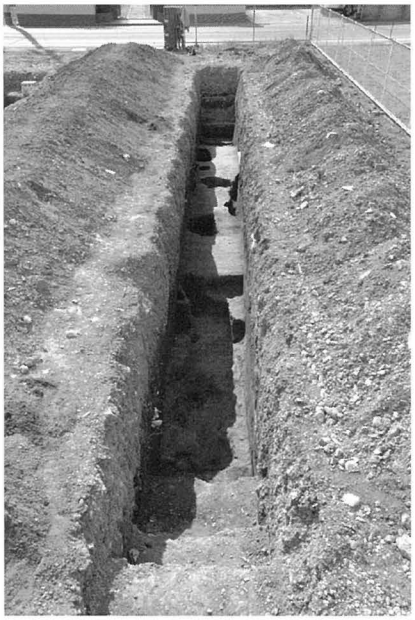
2-3 2T（西から）



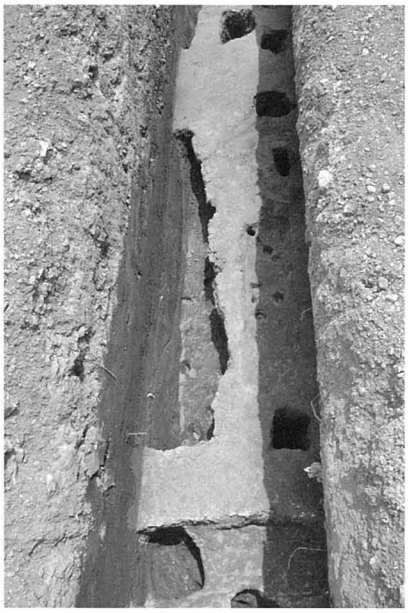
2-4 3、4T（東から）



2-5 5T（東から）



2-6 6T（東から）



2-7 5T柱穴列（西から）

2-8 5T柱穴（北から）

2-9 1T2号井戸遺物出土状況①（北から）

2-10 1T2号井戸遺物出土状況②（北から）

2-11 3、4T住居跡(西から)

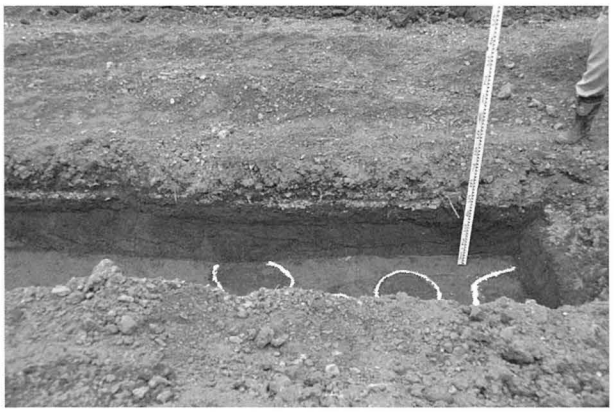
2-12 1T1号井戸（東から）

2-13 5T4号井戸（南から）

2-14 6T東溝状遺構（東から）

2-15 3T遺物番号15、16出土状況

2-16 6T溝(西から)



2-17 1T土層断面（南から）

2-18 6T土層断面（南から）

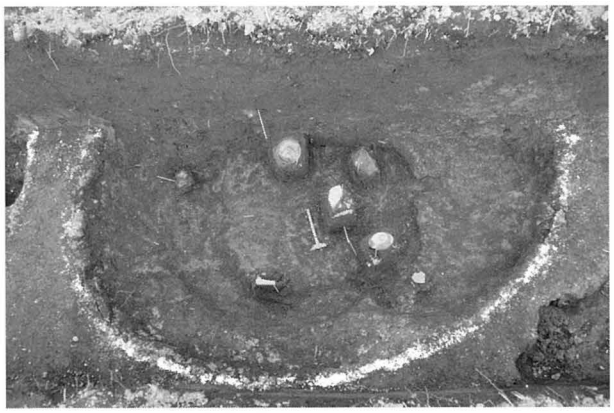
加法師遺跡（平23地点）

3-1 調査状況

3-2 1T（東から）

3-3 2T（東から）

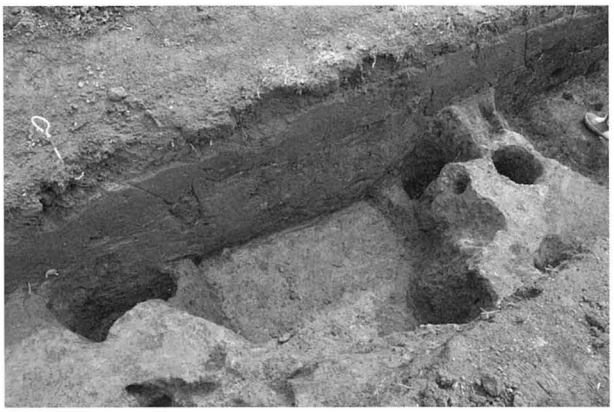
3-4 2T焼土（東から）



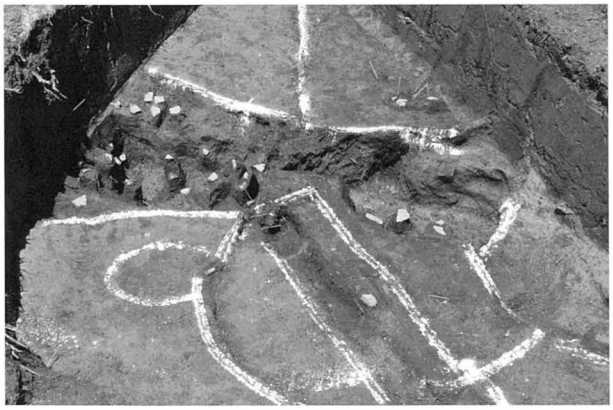
3-5 2T1号円形遺構遺物出土状況（北から）

3-6 2T1号円形遺構完掘（北から）

3-7 2T2号円形遺構遺物出土状況（北から）



3-8 2T2号円形遺構完掘（北から）



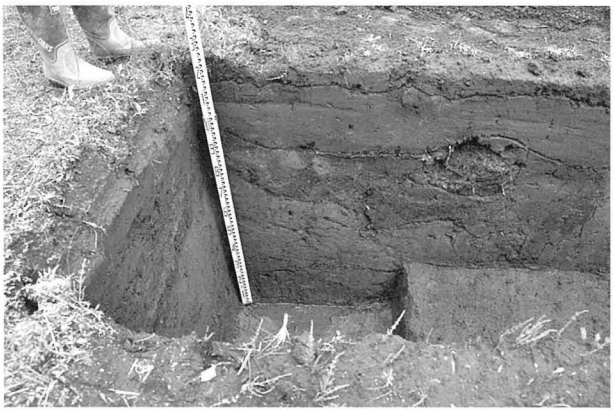
3-9 1T東遺構集中箇所遺物出土状況（南から）

3-10 1T東遺構集中箇所完掘（南から）

3-11 1T1号溝遺物出土状況（北から）

3-12 1T1号溝完掘（北から）

3-13 1T1号井戸遺物出土状況（南から）



3-14 1T土層断面（南から）

北近藤第一地点遺跡（平23地点）

4-1 調査前

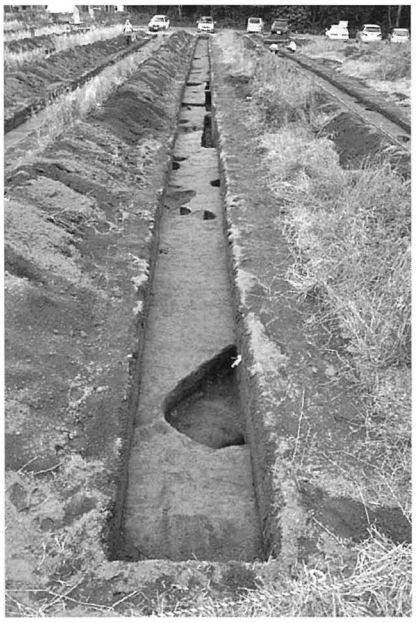
4-2 1T（南から）

4-3 2T（南から）

4-4 3T（南から）

4-5 4T（南から）

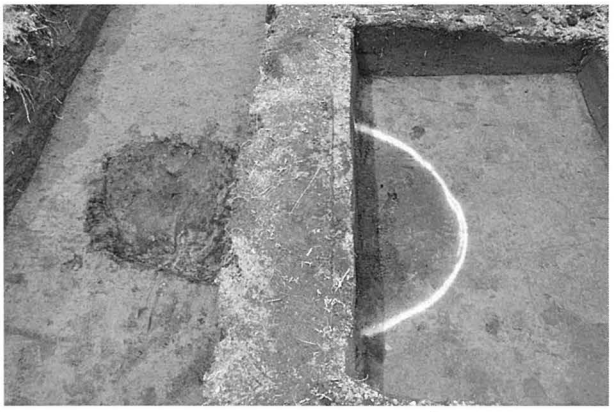
4-6 5T（南から）



4-7 6T（南から）

4-8 7T（南から）

4-9 5T土層断面（西から）



4-10 1T焼土確認土坑（南から）

4-11 8T（南から）

4-12 9T（南から）

4-13 10T（南から）

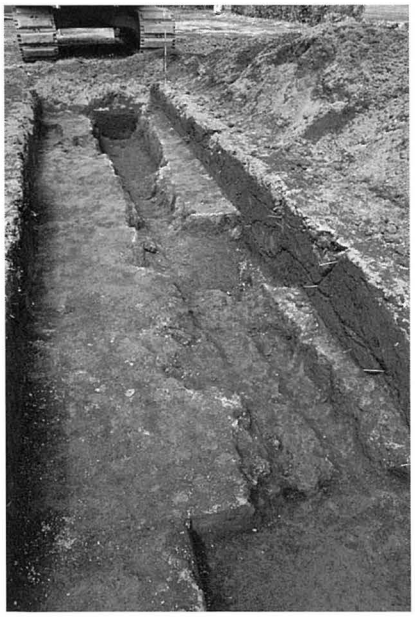
4-14 11T（南から）

4-15 5T住居跡（南から）

4-16 9T住居跡（南から）

4-17 10T住居跡（南から）

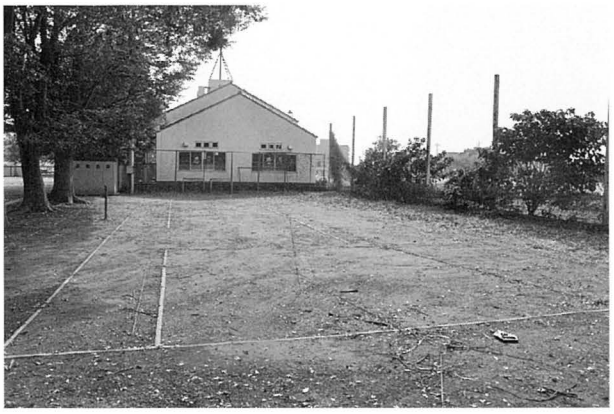
萩原遺跡（平23地点）



5-1 1T1号溝（南から）

5-2 1T土層断面（西から）

志柄1遺跡（平23地点）



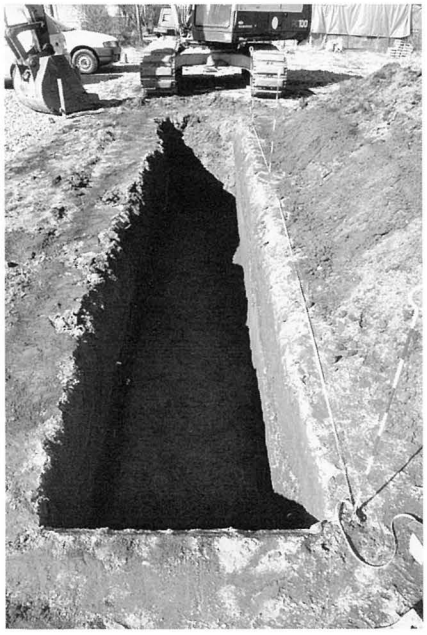
6-1 調査前

6-2 1T（東から）

6-3 2T（東から）

6-4 2T1号溝土層断面（西から）

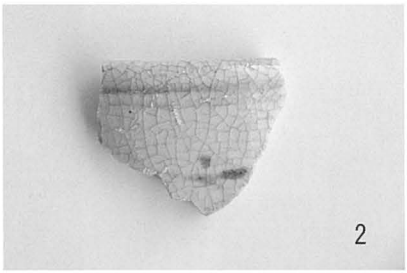
長竹遺跡（平23地点）



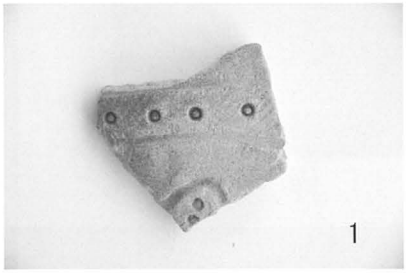
7-1 1T（東から）

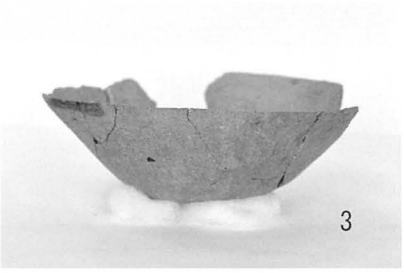
7-2 1T土層断面（南から）

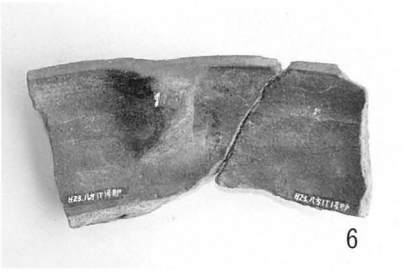
新宿二丁目遺跡（平23地点）

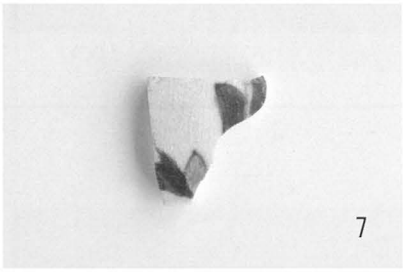


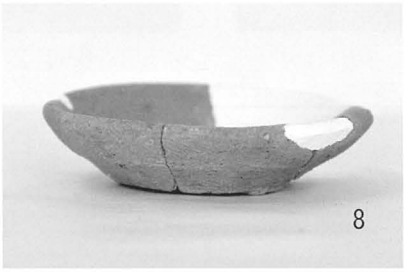
八方遺跡（平23地点）

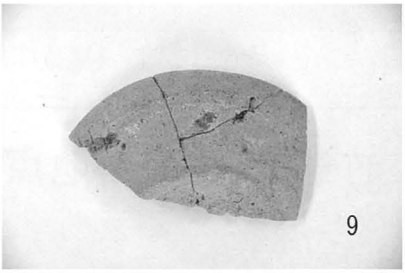








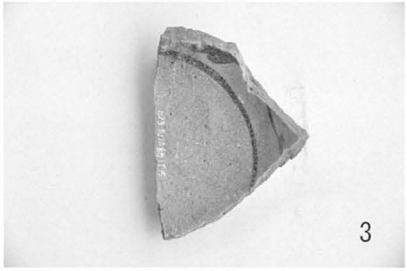


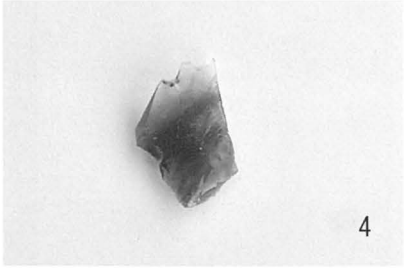


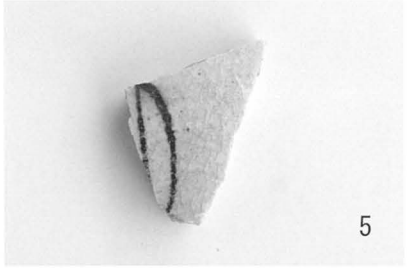
（参考）坂下町字八形3237 表採

（参考）坂下町字八形3217-2 表採

加法師遺跡（平23地点）



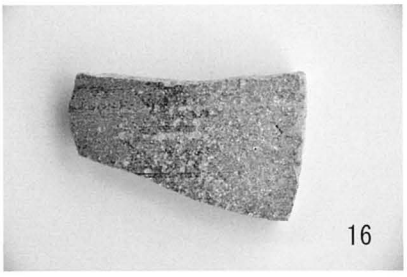




13

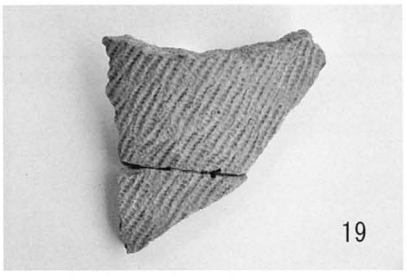
14

15


16

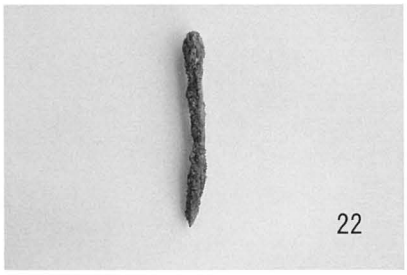
17

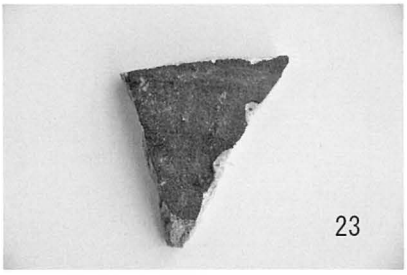
18


19

20

21

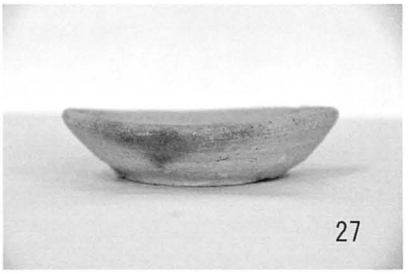

22


23

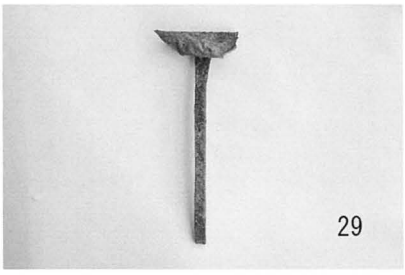
24

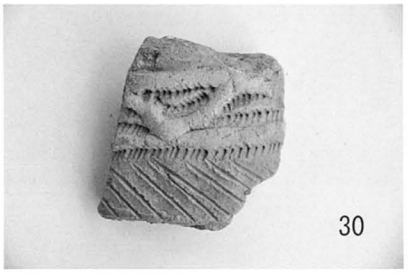
25

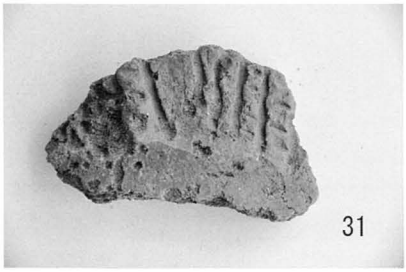
26


27

28


29

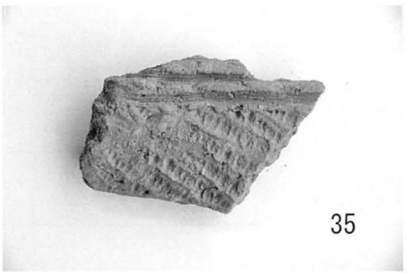

30


31

32

33

34

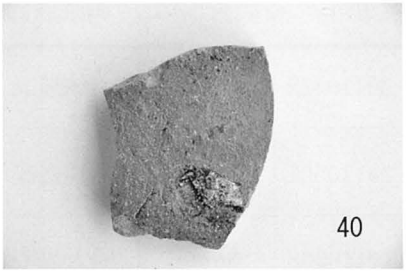

35

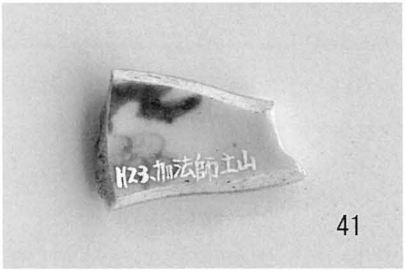
36

37

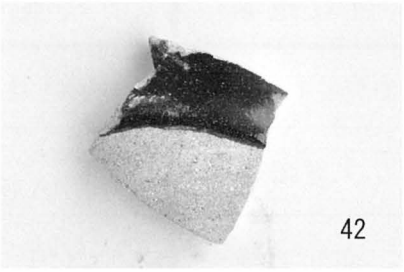
38

39


40



41

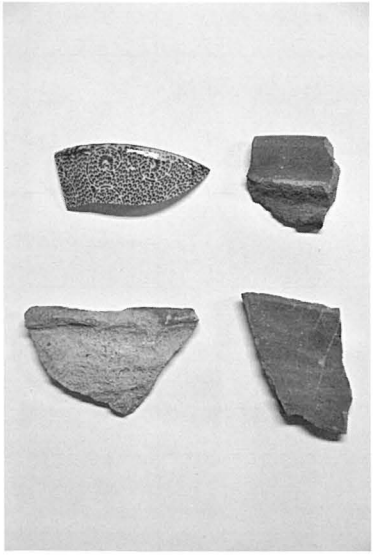

42

北近藤第一地点遺跡（平23地点）

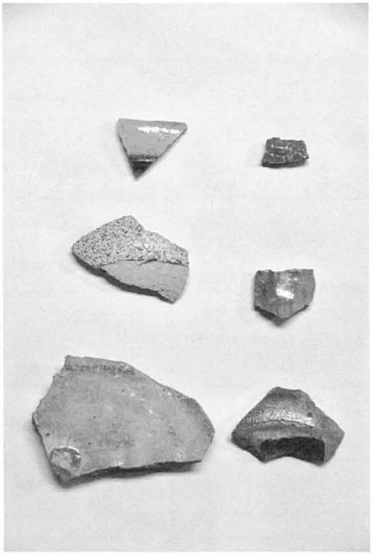
1

2

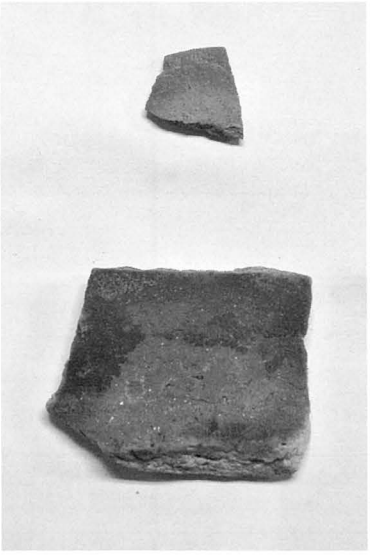
萩原遺跡（平23地点）



志柄１遺跡（平23地点）



長竹遺跡（平23地点）



ふりがな	たてばやししないいせきはっくつちょうさほうこくしょ		
書名	館林市内遺跡発掘調査報告書		
副書名	平成23年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査	巻次	――――――
シリーズ名	館林市埋蔵文化財発掘調査報告書	シリーズ番号	第48集
編集者名	堀越 峰之	編集機関	館林市教育委員会
編集機関所在地	〒374-8501 群馬県館林市城町1番1号		
発行年月日	2012（平成24）年3月31日		
市町村コード	102075		

所収遺跡	所在地	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
新宿二丁目遺跡	新宿二丁目	61	361411	1393136	20110418～20110422	46.5㎡	宅地造成
八方遺跡	岡野町字八方 坂下町字八形	18	361516	1393208	20110421～20110501	97.5㎡	宅地造成
加法師遺跡	加法師町	39	361450	1393259	20110524～20110608	36㎡	個人住宅
北近藤第一地点遺跡	苗木町字北近藤	53	361338	1393023	20110607～20110624	435㎡	店舗
萩原遺跡	苗木町字中島	98	361334	1393056	20110722～20110725	12㎡	個人住宅
志柄１遺跡	赤生田町字志柄	127	361330	1393352	20111012～20111028	36㎡	その他
長竹遺跡	羽附旭町字長竹	82	361353	1393447	20120204	7㎡	個人住宅

遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新宿二丁目遺跡	散布地	時代不明	土坑・ピット多数	石器・陶器	慎重工事
八方遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安	住居跡1（古墳） 溝・井戸5(中近世) 柱穴列	縄文土器・土師器・石器・カワラケ・陶器	発掘調査（協議中）
加法師遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	溝・井戸4（近世） 円形遺構2（近世）	陶磁器	工事立合
北近藤第一地点遺跡	集落跡	縄文・古墳・平安	住居跡2（古墳） 住居跡1（平安）	土師器・須恵器	現地保存
萩原遺跡	散布地	縄文・平安	溝1（近世）	陶磁器	慎重工事
志柄１遺跡	散布地	平安	溝1（近世）	陶磁器	慎重工事
長竹遺跡	散布地	時代不明	無し	土師器片	慎重工事

館林市埋蔵文化財発掘調査報告書 第48集

館林市内遺跡発掘調査報告書

ー平成23年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査ー

編集・発行　館林市教育委員会　文化振興課　文化財係（館林市文化会館内）
〒374-0018　群馬県館林市城町3番1号　電話0276-74-4111
印　　刷　上武印刷株式会社
発行年月日　平成24年3月31日

© Tatebayashi City Board of Education 2012 Printed in Japan

文化財愛護シンボルマーク

http://www.city.tatebayashi.gunma.jp/bunka/